

## シンポジウム「まちづくり・女性・大学」



### 新潟県村上市「町屋と人形さまの町おこし」から「まちづくり」へ

講師：吉川美貴氏（味匠きっ川取締役）

平成18年2月26日（日）奈良女子大学F棟5階大学院会議室で現代GPシンポジウム「まちづくり・女性・大学」が開かれた。

新潟県村上市で町屋を利用したまちづくりについて、味匠きっ川取締役の吉川美貴氏が講演した。新潟県最北に位置する村上市は人口3万人、武家屋敷・町屋・寺町・城（跡）が残り、城下町としての4台要素が残る全国でも希少な城下町である。しかし地元ではその認識も低く、商店街も活気を失っていた。その中で平成9年に商店街に道路拡張による整備計画が持ち上がるのをきっかけに、近代化を目指すのではなく、現在残る「町屋を活かす事でこの町を守ろう！」という動きが市民の中で出てきた事から村上市でのまちづくりが始まった。

村上市で鮭を製造加工販売する会社の役員を務める吉川氏は町おこしの中心メンバーある。初めはご主人と一緒に町内のマップづくりから、「今あるものを活かす、また眠っているものを掘り起こそう」という事で「町屋の人形さま巡り」へと発展していったという。「江戸から

平成までの人形4000体を各町屋で展示」という大胆な企画は初年度から3万人を超える人が訪れ、大盛況であった。その成功から秋の企画として「屏風まつり」も実施し、村上の知名度も全国規模となり、平成16年には「地域づくり総務大臣表彰」を受けている。

その後も村上市の勢いは止まる事もなく「黒塚プロジェクト」や「町屋の外観再生プロジェクト」が開始する。「来て歩いて巡ってみたいくなる町」が大切であるという考えから市民の募金で景観再生をする、という全国で初の試みを実施した。市内の取り組みからJR東日本の協力で「人形さま巡り」初日に村上駅までSLを走らせるイベントを実施したり、町の風情と合わせた駅舎へ改修するなど、どんどんとその熱意は波及していった様だ。

最後に多くの人が村上に足を運んできた事で、「まちの人が自分自身のまちの眠っていた魅力や価値に気づき、誇りを持たた。これからも誇りあるまちづくりに取り組みたい」と結んだ。

#### プログラム

14:00~14:10  
開会挨拶

14:10~15:10  
記念講演  
●吉川美貴氏

15:10~15:20  
休憩

15:20~16:20  
パネラー発言  
●今来準子氏  
●吉川美貴氏  
●林 啓文氏  
●上野邦一氏

16:20~16:50  
ディスカッション

16:50~17:00  
閉会挨拶



「町屋の人形さま巡り」  
ポスター

#### 受講者の声

●吉川さんのバイタリティーに触れられた事が最大の収穫でした。何となく現代GPの目指す所が分かりました。今後具体的な経過、成果の発表もどんどんして欲しいです。（地域紙編集）

●大変良い話でした。村上の話は、家の中の「お宝」探し（堀おこし）からその展示、そこから外の黒塚、町並み整備へと発展し

ていて、一つの流れに整備されるかな、と思います。（他大学教員）

●吉川さんのお話で、旅行者に見てもらった事で初めて市民が町の価値を認識できたという話がとても印象に残りました。外から見たらとても価値のあるもの、中にある人間には気づけないものが奈良にもまだまだあるのではと考えさせられました。（学生）



講演の様子